

『二宮翁夜話』

翁曰夫人道は喩ば、水車の如し、其形半分は水流に順ひ、半分は水流に逆ふて輪廻す、丸に水中に入れば廻らずして流るべし、又水を離るれば廻る事あるべからず、夫佛家に所謂知識の如く、世を離れ欲を捨たるは、喩ば水車の水を離れたるが如し、又凡俗の教義も聞ず義務もしらず私欲一偏に著するは、水車を丸に水中に沈めたるが如し、共に社會の用をなさず、故に人道は中庸を尊む、水車の中庸は、宜き程に水中に入て、半分は水に順ひ、半分は、流水に逆昇りて、運轉滞らざるにあり、人の道もその如く天理に順ひて、種を時き、天理に逆ふて艸を取り、欲に随て家業を励み、欲を制して義務を思ふべきなり。

(福住正兄筆記『二宮翁夜話』岩波文庫 p.21)

※参考 二宮尊徳『二宮翁夜話』(児玉幸多訳 中公クラシックス)